

日本学童保育学会 第13回研究大会

第13回日本学童保育学会研究大会実行委員長
和歌山大学 二宮 衆一

第13回研究大会は、昨年度の中国学園大学での大会に引き続き、対面方式によって開催できるように準備を進めています。現時点では、まだ会員の皆さまが楽しみにしている「懇親会」を開催できそうにありませんが、ようやくコロナ禍という長いトンネルを抜け、徐々に日常の生活が戻ってくる中で、皆さまとお会いできることをとても楽しみにしております。

和歌山大学は和歌山県と大阪府の境に位置する大学です。南海電鉄のなんば駅から1時間ほどで到着する「和歌山大学前駅」が最寄り駅となっています。ただ、和歌山大学は、「和歌山大学前駅」から25分ほど歩く必要があります。大学は山の斜面に位置するため、紀伊水道を眺望できる好立地なのですが、大学までの道のりはのぼりが続きます。タクシーやバスの利用もご検討ください。



和歌山県は、海・山・川の大自然に恵まれ、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」、「日本三古湯」に数えられる「白浜温泉」など観光名所もたくさんあります。また、みかん、梅、マグロ、クエ、伊勢エビ、熊野牛など、豊かな自然に育まれた海の幸・山の幸に加え、地元の人たちのパワーフードとも言える「和歌山ラーメン」や熊野の郷土料理「めはり寿司」など、食べ物も充実しています。お時間が許す限り、この機会を利用し、和歌山を堪能してください。

今大会では、第12回研究大会と同様のプログラムにて大会を開催する予定です。学童保育実践・研究の焦眉の課題について議論する「課題研究」、それぞれの研究成果を発表する「自由研究発表」、そして会員の企画で学童保育実践・研究の交流を図る「自主企画」の時間を設けております。例年よりも早い時期での開催となるため、皆さまをお迎えする十分な準備ができるのか、いささか不安ではありますが、皆さまにとって実りの多い研究大会になるよう、準備を進めていきます。

皆さまのご参加と研究発表・自主企画を心からお待ちしています。

■日 時：2023年5月27日（土）13時30分～

28日（日） 9時30分～

■会 場：和歌山大学 教育学部（東2号館）

（〒640-8441 和歌山県和歌山市栄谷930）

* 今後の新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、開催方法が変更になる場合もあります。その場合は、4月30日頃までに学会HPに掲載します。

■日 程

5月27日（土）[第1日目]

12:00～13:00 理事会

13:00～ 受付

13:30～16:30

課題研究Ⅰ 地域・放課後における子どもの尊厳・権利と学童保育実践 (L-101・オンライン参加)

【趣旨】

2023年4月に施行される「こども基本法」は、「こどもの健やかな成長に対する支援」や子育てへの支援などを包括的に「こども施策」と呼び、その「こども施策」は「次のような事項を基本理念として行われなければならない」としました。その事項には「全てのこどもについて、個人として尊重され、その基本的人権が保障されるとともに、差別的取扱いを受けることがないようにすること」、「全てのこどもについて、その年齢及び発達程度に応じて、自己に直接関係する全ての事項に関して意見を表明する機会及び多様な社会的活動に参画する機会が確保されること」があげられ、理念的にみれば実に画期的な内容が書かれました。

しかし、この理念を具体的にどう実現していくのかについては、大きな課題があります。同法には、基本理念・子どもの諸権利を具体的に保障していくための手続き・方法が書かれておらず、そして、学童保育や放課後における諸施策の現場には、同法の基本理念とはかけ離れた実態があることを認めざるを得ないからです。

2023年3月、東京新聞は、少なくない学童保育の現場において国が示す基準を超えて子どもが「詰め込まれ」ている実態を告発し、その環境を「まるで鳥小屋」と形容しました。この記事では、「おおむね40人以下」とする1クラスあたりの国の基準を超えて「詰め込」まれた状況が、全体の3分の1を超えていることも示されました。また、この大会を準備する会議のなかでは、放課後子供教室と学童保育が一体的に運営されたある現場では、あまりに多くの子どもがいて、子どもは自分の名前と呼ばれることすらないと報告されました。さらに、コロナ禍で、子どもたちは、制限だらけの生活を余儀なくされ、意見の表明どころか、我慢をして、けなげに生きざるを得なかったということは、多くの人が見てきたことでしょう。

「児童は、人として尊ばれる」とうたった児童憲章が宣言されて70年余り、国連子どもの権利条約を日本政府が批准してもうすぐ30年になります。2015年に策定された「放課後児童クラブ運営指針」においても、子どもの権利条約の「理念に基づき、子どもの最善の利益を考慮して育成支援を推進する」ことがうたわれています。こうした理念と理念のままに終わらせず、あらためて地域や学童保育の現場や活動において、子どもがリスペクトされ、「個人として尊重され」、「人として尊まれ」とは、いったい、どういうことであるのかを考えていくことが求められています。そして、国連子どもの権利条約が示した子どもの権利——意見表明権、「表現への自由」、「結社・集会の自由」、さらには休息・余暇の権利、遊ぶ権利、文化的・芸術的生活への参加の権利——を地域や学童保育において実現していくということが求められています。

この課題研究では、国の法や制度、自治体施策の問題点やそこに起因する困難があることは押さえてながらも、そうした問題点を指摘して終わるのではなく、制約があるなかでも学童保育実践が持っている可能性にかけ、具体的な実践報告をもとに考えあいます。

【報告者】

- ・川崎みゆき（吹田市学童保育指導員）
- ・他地域での学童保育指導員からの報告（依頼・調整中）

【コメンテーター】山下雅彦（東海大学名誉教授）

【司会】石原剛志（静岡大学）

17:15～18:30 自主企画

5月28日（日）[第2日目]

9：00～ 受 付

9：30～12：00 自由研究発表（1分科会のみオンライン参加可能）

・発表時間は、個人研究（発表20分、討議10分）、共同研究（発表30分、討議15分）です。

・発表希望者は、後述する「自由研究発表申し込み方法」をご覧ください。

12：20～13：00 総会

13：20～16：00

課題研究Ⅱ

子ども理解は学童保育実践をどう変えるか（L-101・オンライン参加）

【趣旨】

学童保育実践において、最も大切にされてきたことの一つに「どのように子どもを理解するのか」という子ども理解があります。学童保育の指導員が子どもをどのように理解しているのかは、指導員の実践を支える支柱といえます。例えば、暴言を吐く子どもや暴力をふるう子どもは「問題児」と解釈されがちですが、学童保育や学校教育、保育分野では、そうした子どもたちの行動を「問題」と捉えるのではなく、子どもが抱える「問題」のサインと理解し、子どものSOSの声と理解する子どもの見方が提起されてきました。「問題児」とレッテルを貼られがちな子どもたちを、そうした子ども観に立って理解しようとする指導員は、おのずと子どもに共感的に寄り添う関わり方を行うようになっていきます。

学童保育の現場では、自らの子ども観を問い直し、子どもを理解する眼を磨くために、指導員は日々の実践の記録をとり、それを実践記録としてまとめ、さらに実践記録を指導員同士でふりかえる実践検討会を自主的に行ってきました。同じ学童保育に勤める指導員同士で、そうした実践検討を行い、時には異なる学童保育に勤める指導員が集まり、地域の指導員集団として実践検討会を行うことで保育の質を向上させようとしてきたのです。実践検討の場では、問題行動と呼ばれる子どもの言動の是非を論じるのではなく、「なぜこうした言動をとるのか？」「この行動に隠れている本当の思いは何なのか？」を子どもの事実から指導員集団で読み解いていき、それぞれの指導員が自らの子どもの見方・理解を出し合い、検討していきます。そうした実践のふりかえりにもとづく学びの蓄積の中で指導員は、自らの専門的力量を培ってきました。

こうした指導員の学びは、近年、「反省的实践家」の学びとして着目され、研究対象となってきました。本課題研究では、どのような実践記録の書き方や実践検討会が、子ども理解を深め、子ども観を培う指導員の学びにつながっていくのか。また、どのような子ども理解の深まりや子ども観の形成が、指導員の保育実践を変える契機となるのかを考えます。

【報告者】

- ・森崎照子（元愛知県学童保育指導員）
- ・城谷千鶴（和歌山県学童保育連絡協議会会長）
- ・船越勝（和歌山大学）

【司会】二宮衆一（和歌山大学）

■ 大会参加費

□大会参加費（2 日 間）会員 3,000 円 非会員 4,000 円 学生はそれぞれの半額。

（1 日のみ）会員 2,000 円 非会員 3,000 円 学生はそれぞれの半額。

□現地にて参加される方は、当日、参加費をお支払ください。おつりのないようご準備ください。

□オンラインでの参加を希望する方は、参加申込みを行った上で、下記の学童保育学会の口座に、5 月 25 日（木）までに参加費をお支払いください。

【ゆうちょ銀行 総合口座 加入者名：日本学童保育学会】

・ゆうちょ銀行口座間の場合 → 記号：1 4 1 3 0 番号：8 9 8 8 3 2 5 1

・他金融機関からの場合 → 店名：4 1 8 普通 口座番号：8 9 8 8 3 2 5

■ 大会参加申し込み（締め切り 5 月 25 日）

研究大会参加申込フォーム



□大会に参加される方は、大会前日の5 月 25 日（木）までに必ず事前に参加申し込みをして下さい。

□参加申し込みは右の QR コードで「参加申込フォーム」にアクセスして、必要事項をご記入下さい。

<https://forms.gle/jED2bj2xCw6xCDYs7> （学会 HP からでもできます。）

□オンラインでの参加も可能です。ただし、オンラインでの参加の場合は、課題研究ⅠとⅡ、自由研究発表のオンライン分科会のみ参加となります。オンライン参加希望の方は、「参加申込フォーム」にて申込み後、必ず参加費を事前にお支払いください。参加費の支払いを確認できた方のみ、事前に ZOOM 情報をお送りいたします。5 月 25 日（木）までに必ず参加申し込みと参加費の支払いをお願いします。

■ 自由研究発表申し込み方法（締め切り 4 月 23 日）

□自由研究発表者は、日本学童保育学会会員（入会申請中も可）であることが要件です。現在会員でない方で自由研究発表を希望する場合は、発表申し込みと同時に、学会入会申し込みをして下さい。学会入会申し込みについては、日本学童保育学会事務局にお問い合わせください。入会案内・規約・申込書等は学会 HP でも入手できます。

□発表希望者は、4 月 23 日（日）までに以下の「発表申込フォーム」よりお申し込み下さい。

<https://forms.gle/QEaREvsLVFtNy93Q9> （学会 HP からリンクしています。）

■ 『発表要旨集』の提出について（締め切り 5 月 10 日）

□自由研究発表者は、『発表要旨集』に掲載する原稿を作成し、5 月 10 日(水) (必着)までに大会実行委員会宛にご送付下さい。

□以下より、執筆要領をダウンロードし、その様式に従って作成して下さい。

[https://docs.google.com/document/d/1d4A0c-](https://docs.google.com/document/d/1d4A0c-6zcTpcGcuhVP924x7uhgNrJj5_/edit?usp=share_link&ouid=105446829997030174904&rtpof=true&sd=true)

[6zcTpcGcuhVP924x7uhgNrJj5_/edit?usp=share_link&ouid=105446829997030174904&](https://docs.google.com/document/d/1d4A0c-6zcTpcGcuhVP924x7uhgNrJj5_/edit?usp=share_link&ouid=105446829997030174904&rtpof=true&sd=true)

[rtpof=true&sd=true](https://docs.google.com/document/d/1d4A0c-6zcTpcGcuhVP924x7uhgNrJj5_/edit?usp=share_link&ouid=105446829997030174904&rtpof=true&sd=true)（学会HPからリンクしています。）

□作成した発表要旨は、下記の「自由研究発表要旨提出フォーム」にて提出ください。提出の際、2 種類のファイル（ワープロの文書ファイルと PDF ファイル）を送付してください。

<https://forms.gle/zoHsvYfPgESWD4Cu8>（学会HPからリンクしています。）

□提出いただいた原稿は、そのまま発表要旨集に印刷させていただきます。

□締め切りまでに提出されない場合は、掲載いたしませんので、ご了承下さい。

■ 「自主企画」について（申し込み締め切り 4 月 23 日）

□研究大会の新しい試みとして、会員の企画によって学童保育研究・実践について交流する時間を設定します。登壇者は非会員も可としますが、大会参加費を支払うものとします。

□企画希望者は、4 月 23 日(日)までに以下の「自主企画申込フォーム」よりお申し込み下さい。

<https://forms.gle/etirv2CMfmdscu9t6>（学会HPからリンクしています。）

■会場までのアクセス

<和歌山大学前駅まで>

（飛行機利用）

□最寄りの空港は、関西国際空港になります。関西国際空港到着後、南海電鉄にて 2 駅先の泉佐野駅まで行き、和歌山市方面の電車に乗り替え。関西国際空港からの所要時間は、35 分から 65 分程度。

（新幹線利用）

□新大阪駅にて地下鉄御堂筋線に乗り換え、なんば駅で下車。なんばにて南海電鉄の特急サザンに乗り換え、約 1 時間で「和歌山大学前駅」に到着。特急サザンは 30 分毎にあり、無料席と有料席があります。新大阪からの所要時間は、90 分から 120 分程度になります。

<和歌山大学まで>

□徒歩約 25 分（約 2 キロ）。正門からのルートは、キャンパスマップを参照ください。

□和歌山大学前駅からバスやタクシーを利用できます。

和歌山大学までのアクセス方法の詳細は、下記の和歌山大学の HP をご覧ください。

<https://www.wakayama-u.ac.jp/about/access.html>

[illegible]

A map of the Wako University area. The Nankai Main Line (南海本線) runs diagonally from the top left. Wako University (和歌山大学) is marked with an orange circle near the top. The Nankai Wako City Station (南海和歌山市駅) is located in the center. The Wako River (紀の川) flows through the area. Other landmarks include Wako Port (和歌山港), Wako City Hall (市役所), Wako City (和歌山市), Wako University (和歌山大学), and Wako University (和歌山大学). The map also shows the JR Wako Station (JR和歌山駅) and the Wako Bypass (和歌山バイパス).

□土曜日と日曜日は、駐車場が開放されておりますので、無料ご利用いただけます。
□駐車場位置は、キャンパスマップを参照ください。会場に近い駐車場は、P5とP6です。

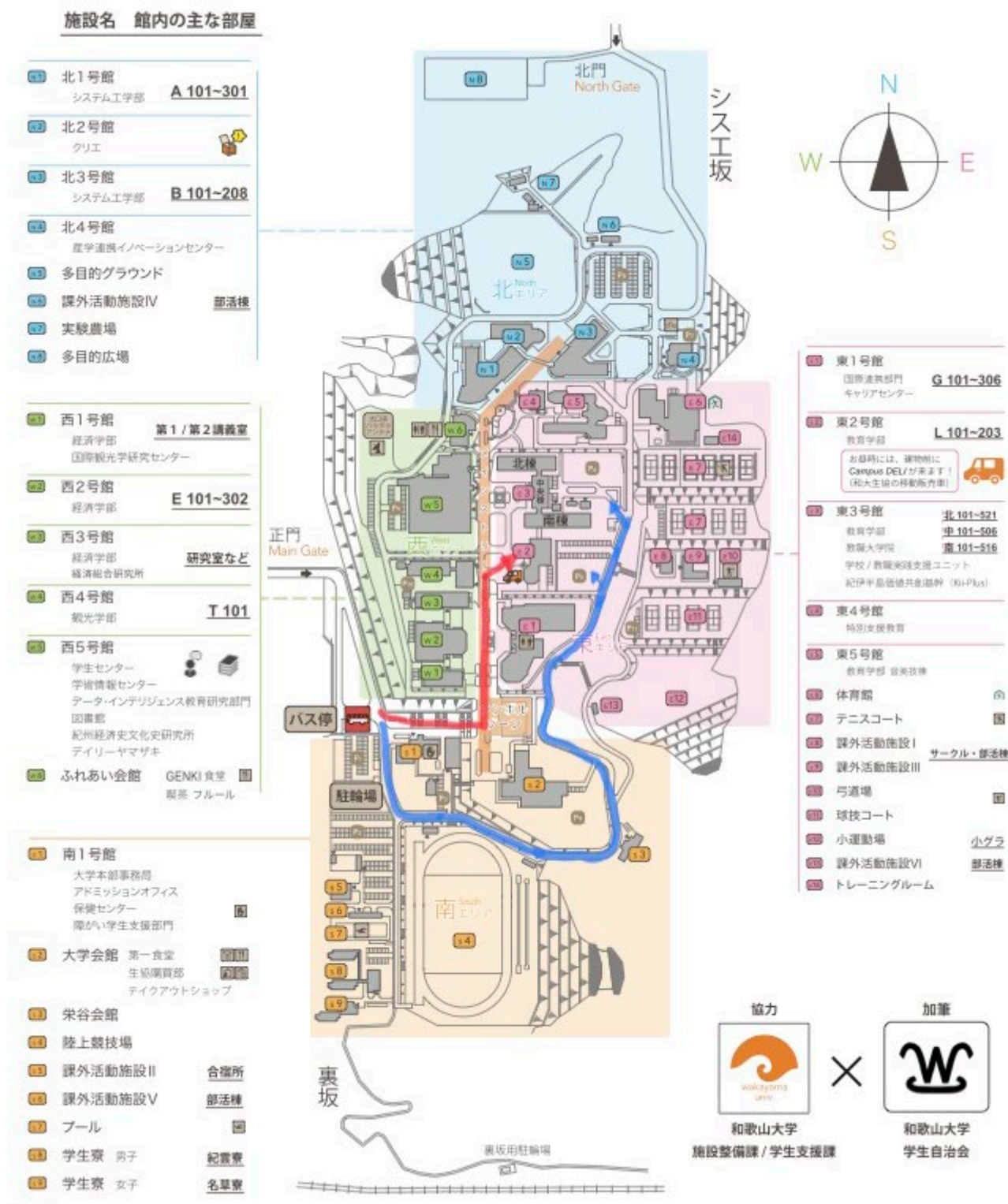
□大会会場の最寄駅である和歌山大学駅周辺には宿泊施設はありません。

□南海電鉄の和歌山市駅周辺（和歌山大学前駅まで約10分）、あるいは泉佐野駅周辺（和歌山大学前駅まで約30分）の宿泊施設をご利用下さい。

□1日目も2日目も、学内の食堂は営業していない可能性があります。
□大学周辺のコンビニや飲食店を利用するのは難しいため、昼食を持参ください。

<http://www.gakudouhoikugakkai.com/>

■会場図



○正門はバス停となります。会場は E2（東2号館）となります。
 ○徒歩の方は赤線、車の方は青線のルートを参照ください。